

大橋川周辺白湯地区
水辺空間とまちづくりの基本計画



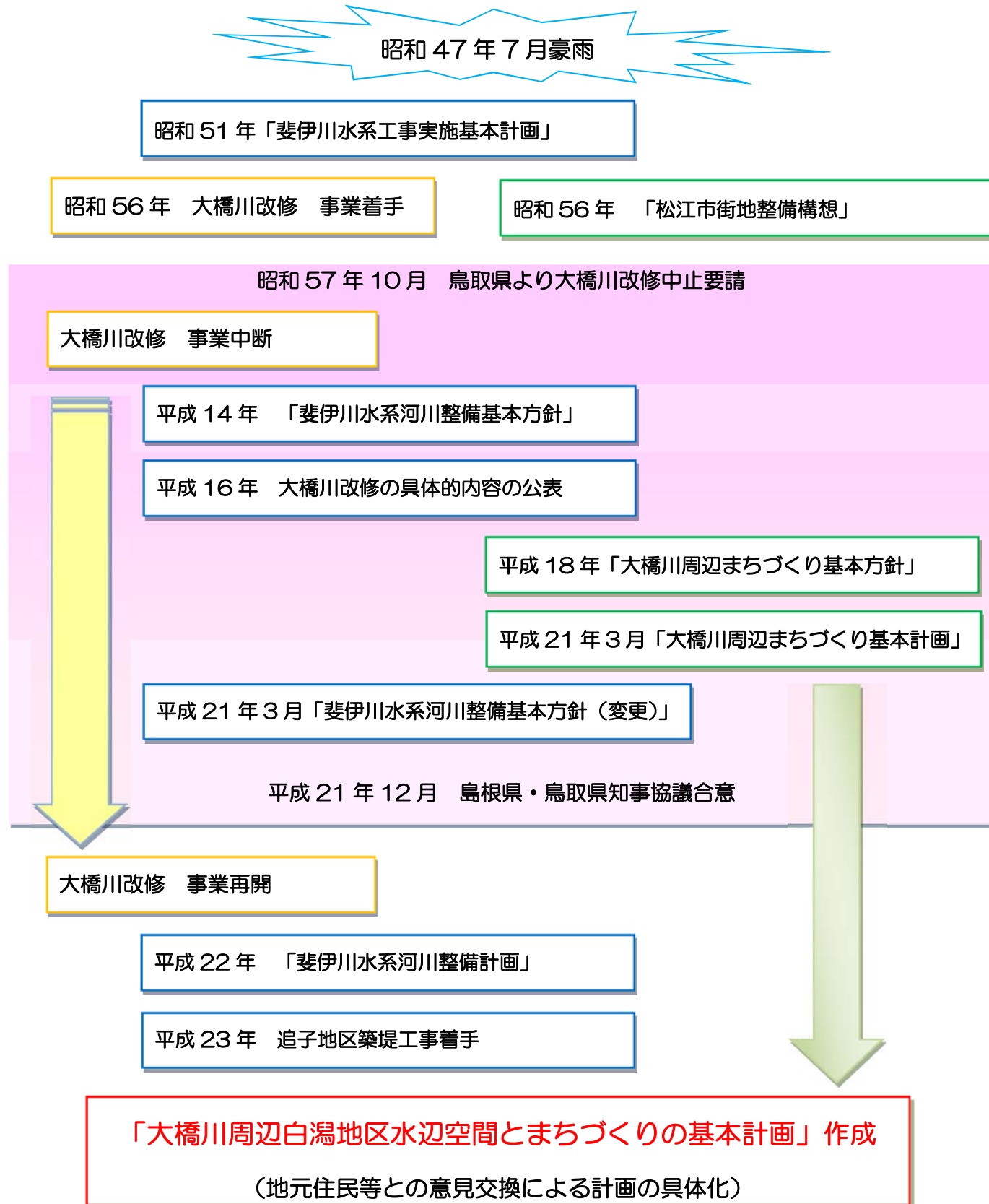
平成 25 年 4 月

松江市

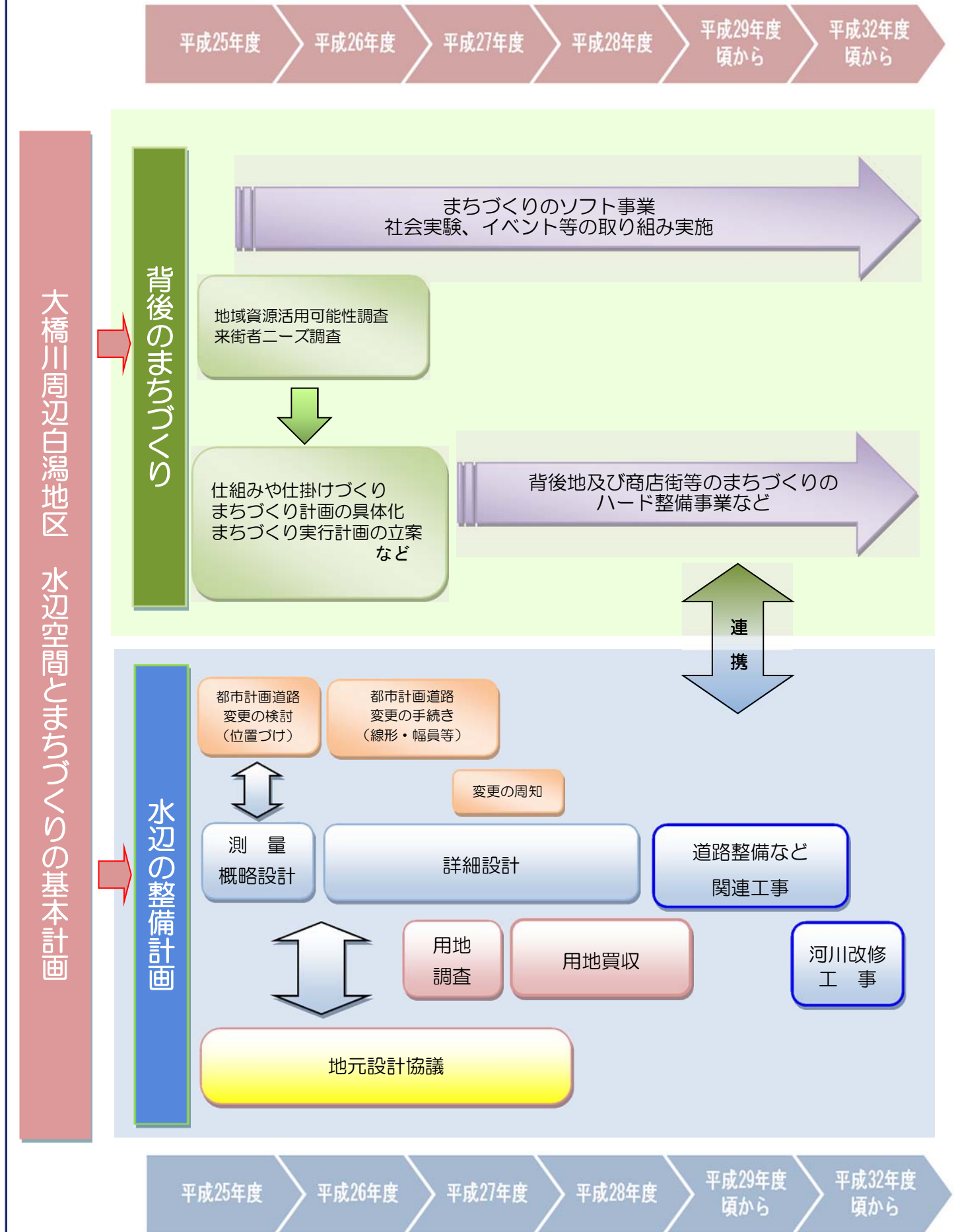
1. これまでの経緯

斐伊川流域は古来よりたびたび洪水被害を受けており、特に昭和47年7月豪雨災害を契機に斐伊川・神戸川流域の治水に関する新たな計画が策定され、昭和50年代に事業着手しましたが、その後中断してしまいました。再び、平成21年12月島根・鳥取両県知事の合意を得て、平成22年9月に整備計画を策定し、平成23年8月から事業が再開しました。

① 大橋川改修の取り組み



② スケジュール



③賑わいスポットづくりと賑わい軸の再生

●賑わいスポットづくりを支援します

空き店舗や蔵、駐車場などを活用したこだわり店舗の立地を促進したり、若者の経営者が出店しやすいようなレンタルスペースの整備などを推進します。



●大橋通りの再生に取り組みます

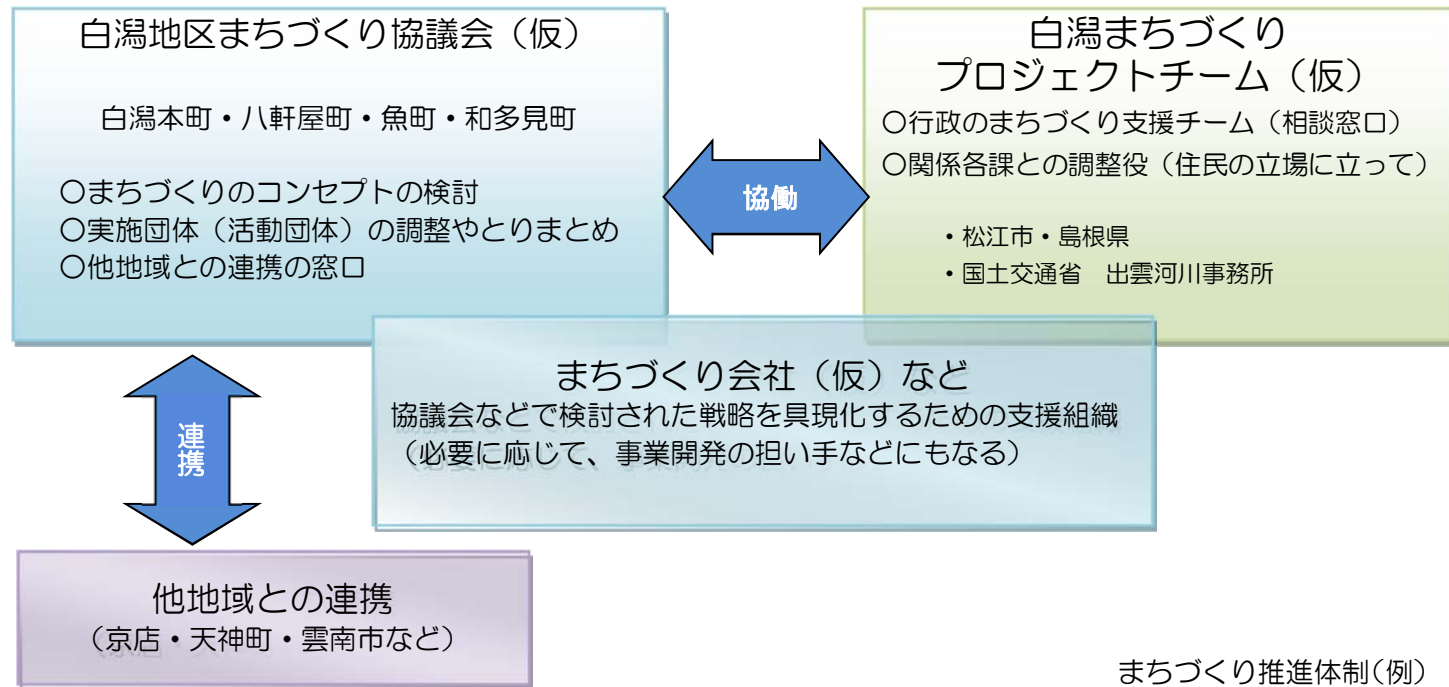
大橋通りのアーケード空間は、老朽化が進行しつつあるとともに、連続していない所もある状況です。今回の水辺空間の整備に合わせて、大橋通りも使い方や沿道の土地利用等などについて議論を深め、賑わい再生の軸として再生を目指します。



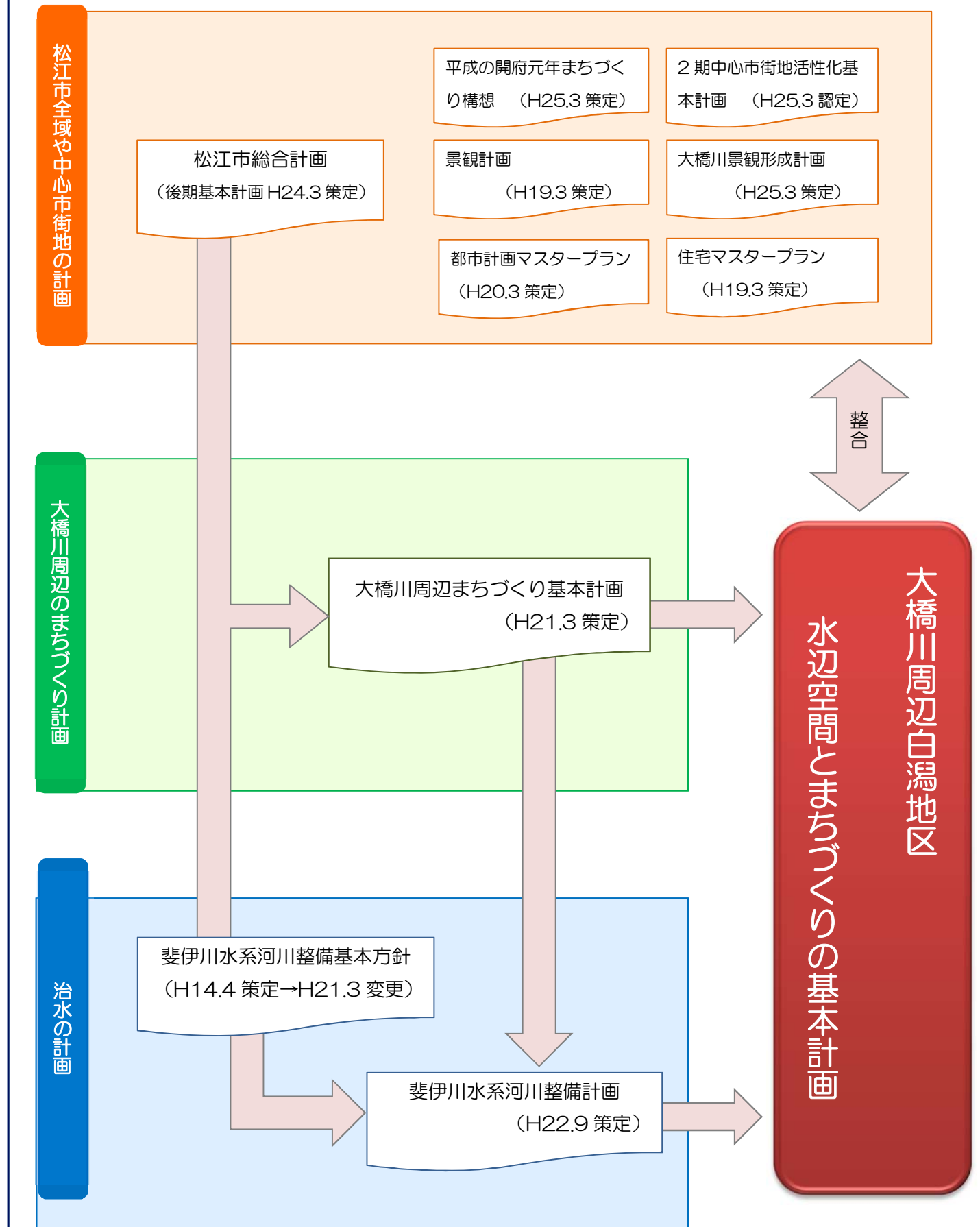
3. 今後の取り組み方針とスケジュール

① 取り組み方針

地元住民等が主体的に関わる仕組みや仕掛けづくり（組織や手法、推進体制）が必要になってくるとともに、行政側もそれを支援する体制づくりを行っていきます。

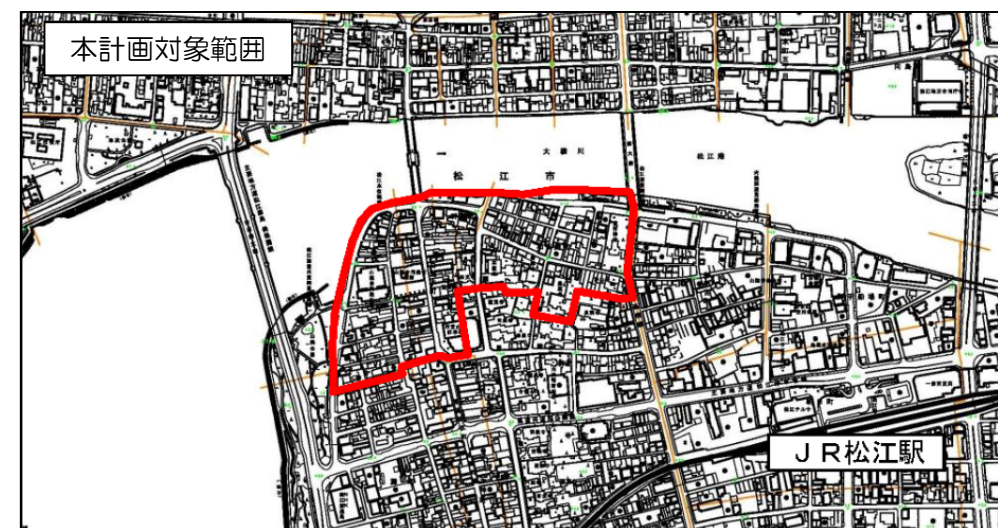
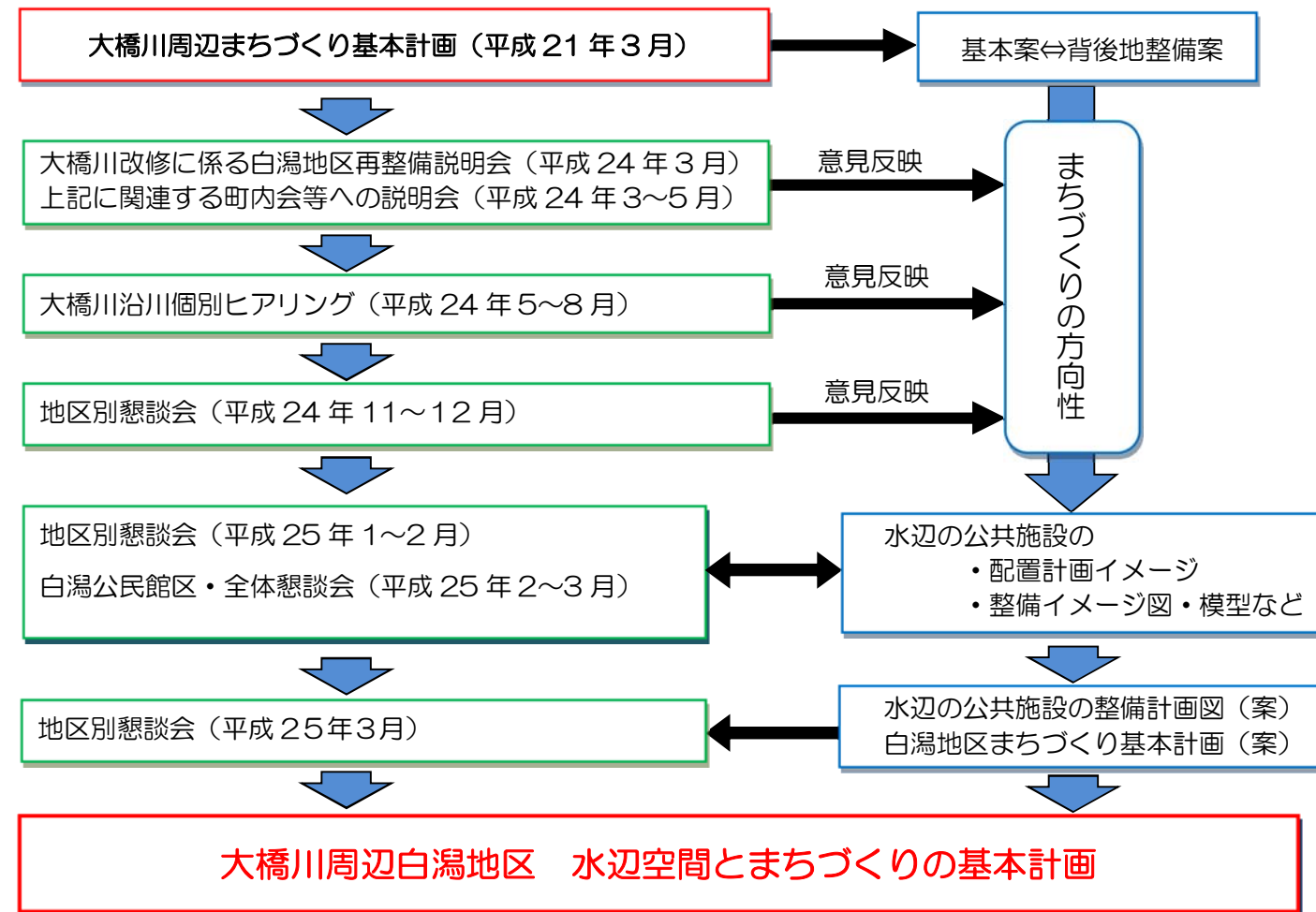


② 本計画の位置づけ



③ 本計画策定までの経過

平成24年5月から8月にかけて、個別ヒアリングを行うとともに、11月からは地区別懇談会や白湊地区全体懇談会や市民意見交換会を開催し、地域住民などの議論を踏まえて「水辺空間とまちづくりの基本計画」をまとめました。



基本方針3：「訪れてよし」のまちづくり

①水辺を活かした賑わいのあるまちづくり

●沿道部を中心に効率的かつ効果的な土地利用

水辺に近い所に形成されていた商業空間は消失するとともに、沿道部に不整形宅地が発生することが予想されることから、沿道区画整理事業やミニ再開発事業等により、水辺の景観を活かした飲食店などの集積を図り、魅力的な商業核の形成を推進します。

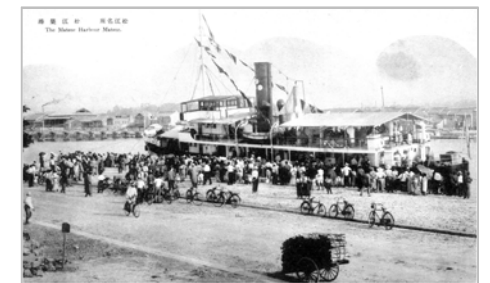


門司港レトロ

②白湊の魅力を高めるまちづくり

●水運などを活用した交流を主体にした賑わいづくり

現在も斐伊川の上下流交流として雲南市との交流イベントが開催されています。この取り組みをさらに発展させて、かつて交流のあった港町の物産市等を開催するなど交流を主体にしたまちづくりを支援します。



松江港開港(昭和8年頃)

●水辺を利用した賑わいづくり

釣り、カヌー、ボート等の水面を利用したイベントや水辺のオープンカフェ等が楽しめるような取り組みを支援したり、ウォーキングイベントの開催など水辺の拠点空間周辺を活用した賑わいづくりを推進します。

●文化や伝統を活かした賑わいづくり

地区内には伝統的なお菓子やお茶など取り扱っている店舗や着物など松江の風情に調和する店舗があり、そうした資源を活用し、まちゼミ、お茶教室、お菓子づくり教室、ひな祭りや四季の風習などに関するイベント等を開催し、賑わいづくりを支援します。



松江の伝統的なお菓子と和菓子

●地域資源を活かした賑わいづくり

地区内には、小路や蔵等かつての廻船問屋などで栄えた面影が残されており、これらの地域資源を活用して、まち歩きイベントを開催するなど、白湊の魅力向上情報の発信や源助物語など地域固有のアイデンティティを育てる取り組みを支援します。

●OL・ビジネスマンを対象とした賑わいづくり

昼間のOLやビジネスマン等を対象に、食堂スタジアムや昼食市場、エステや茶道、歌謡など、来街者がまちで飲食を楽しんだり、趣味や娯楽を楽しめる環境づくりを支援していきます。



古建築再生店舗

基本方針2：「住んでよし」のまちづくり

①住みたい人が住み続けられるまちづくり

- 沿道部を中心に効率的かつ効果的な土地利用
沿道区画整理事業やまちなかミニ再開発事業、駐車場の再編等によって、宅地の再編を図り、コンパクト住宅の整備など、効率的かつ効果的な土地利用を推進します。
- きめ細やかな代替地の斡旋や小規模宅地の再編支援
住んでいる方の希望にできるだけ沿えるように、代替地の斡旋等必要な対策や支援を講じていきます。



ご縁横丁(出雲大社門前町表参道神門通)

②白湯の魅力を楽しむまちづくり

- アクティブシニアが豊かに暮らせるまちづくり
豊かな歴史資源や水辺環境を享受しながら、社会貢献に興味があり、地域づくりに積極的に参加する元気人が住みやすくなるように、空き家などを活用する住宅の再生を支援します。
- 若者がいきいき暮らせるまちづくり
まちなかの利便性や快適性を享受しながら、若者がいきいき暮らせる住環境づくりとして、シェアハウスや古民家再生住宅の推進を支援します。



歴史まち歩き



シェアハウス(魚町:尾原ハウス)

③地区内交流が盛んで、安心・快適なまちづくり

- お年寄りと若者、新旧住民、住む人と働く人が交流し、支え合うまちづくり
地区内のいろんな人が参画・交流できるイベントの実施、昼間のラジオ体操、防災等の取り組み、まつり等の伝統文化活動等を支援し、住む人や訪れる人が交流するまちづくりを推進します。
- みんなが便利に暮らせるまちづくり
より快適、便利に暮らせるように、コミュニティ店舗や買い物支援など、日常生活が豊かに安心して過ごせる仕組み・仕掛けづくりを推進します。



交流イベント(まちあるき実験)



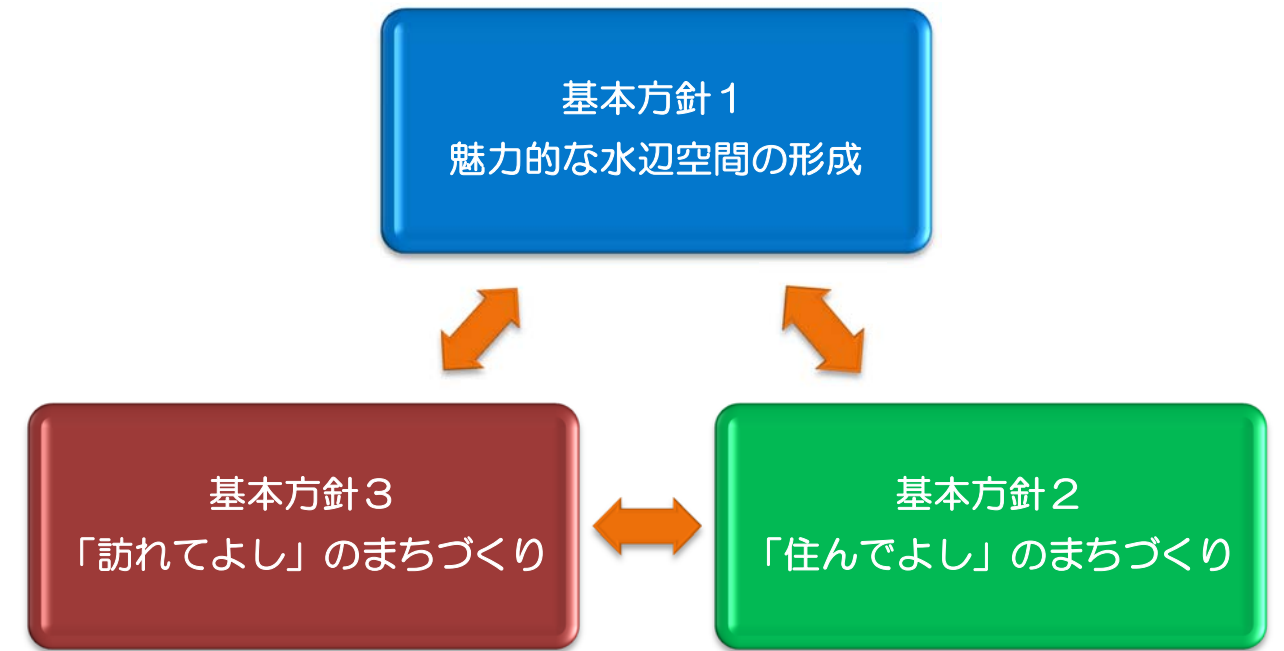
野菜の移動販売

2. まちづくりの目標と基本方針

■ まちづくりの目標

魅力的な水辺空間と豊かな地域資源を
活用しながら、「住んでよし」、「訪れてよし」
の「交流」のまちづくり

■ まちづくりの基本方針



基本方針1：魅力的な水辺空間の形成

大橋川沿川には、住む人・訪れる人が大橋川の豊かな風景を享受しながら、利用できる魅力的な水辺空間を創造します。

基本方針2：「住んでよし」のまちづくり

中心市街地の利便性と大橋川沿線の良好な環境を享受しながら、若い人からお年寄りまで、安心して、いきいきと暮らせるまちづくりを推進します。

基本方針3：「訪れてよし」のまちづくり

大橋川沿川や白湯本町商店街を中心に、創出される魅力的な水辺空間と小路や蔵などの歴史的資源等を活用しながら、多くの来街者が訪れ、「人との」が交流するまちづくりを推進します。

基本方針1：魅力的な水辺空間の形成

① 歩きたくなる魅力的な水辺空間の整備

● 松江駅から松江大橋までのまち歩きルートの整備

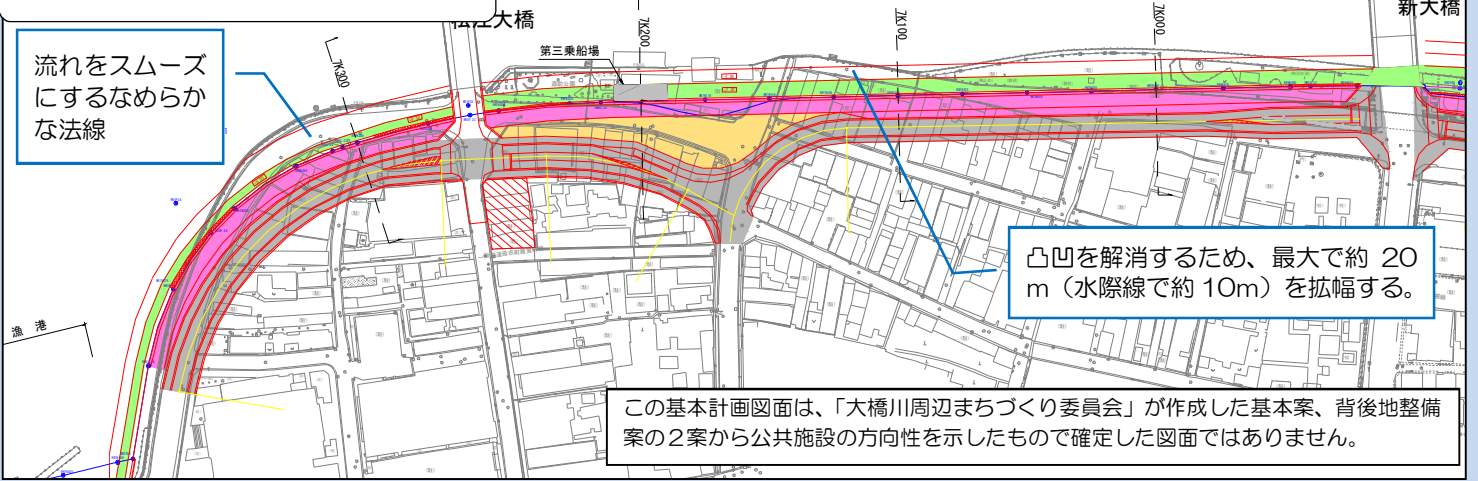
大橋川に沿っては、市民や観光客が散策などを楽しめるように、連続した水辺の散策路を整備します。

● 水辺の拠点空間の整備

松江大橋南詰めに水辺の拠点エリアを整備して、水辺の景観を楽しみながら休憩するための施設の立地を推進します。



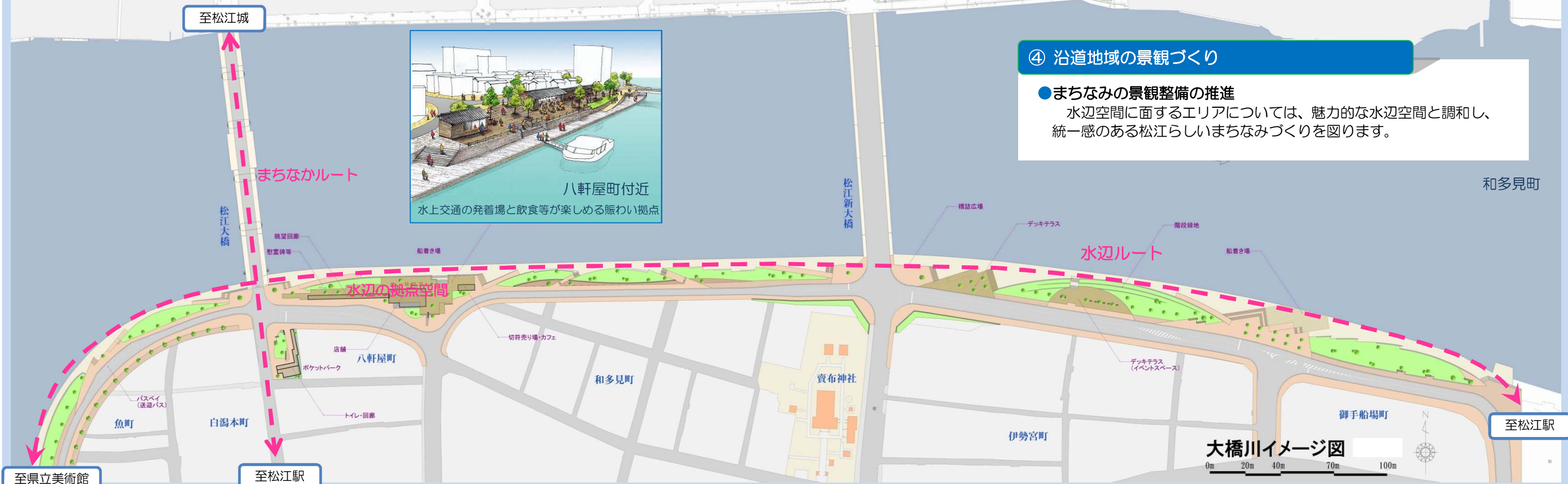
大橋川改修（白濁地区）基本計画図



④ 沿道地域の景観づくり

● まちなみの景観整備の推進

水辺空間に面するエリアについては、魅力的な水辺空間と調和し、統一感のある松江らしいまちなみづくりを図ります。



② 来訪しやすい仕掛けづくり

● 水上交通の発着場の整備

松江駅や近くの交通結節点、観光拠点を連絡するとともに、宍道湖や大橋川などへの遊覧船の発着場となる施設の整備を図ります。

● バス停やバスベイの整備

松江大橋南詰めに水辺の拠点エリアを整備して、水辺の景観を楽しみながら休憩するための施設の立地を推進します。



③ 水辺を近く感じる道路空間の整備

● 車両の速度抑制や歩行者・自転車の安全快適な通行環境の創出

沿線の土地利用状況に配慮しながら、安心、快適に通行できる道路整備を図ります。

● 水辺とまちなみ等が調和する道路空間の整備

水辺を近くに感じられるように、水辺とまちなみが調和する道路の景観整備を図ります。

